

## GCOE 国際会議出席報告書（外国旅費用）T1219

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	ひらき たかひろ 平木 貴宏	所属・学年/職名	指導教員名 (院生の場合)
		高エネルギー物 理学研究室 /D1	中家 剛
Tel,Fax e-mail	(Tel):075-753-3849 (e-mail):hiraki@scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	T2K muon monitor		
著者名	Takahiro Hiraki (for the T2K group)		
会議名称 ・開催期間	8th International Workshop on Neutrino Beams and Instrumentation (NBI2012) 自 2012年 11月 6日 ~ 至 2012年 11月 10日		
開催地 (国、市)	CERN,Geneva,Switzerland		
出張期間	自 2012年 11月 5日 ~ 至 2012年 11月 12日		
国別および 総参加者数	総参加者数：約 50 名 国別：スイス 約 20 名 アメリカ 約 10 名 日本 7 名 その他：十数名		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>この会議では世界のニュートリノビームを用いた実験の、ビームライン機器とそれに関連する検出器、構造物について、約 50 の口頭発表があった。</p> <p>平木は T2K 実験で用いている muon monitor 検出器について口頭発表を行った。</p> <p>発表内容は、まず muon monitor 検出器の構成と検出器の目的とについて説明した後最近の検出器の運転状況などについて報告をした。具体的には、東日本大震災による検出器の被害の様子と復旧について、muon monitor の主な目的であるビーム中心の方向の測定によりビーム中心が安定していることが保障されていること、シリコン検出器のビーム強度に対する linearity が良くないこと、またシリコン検出器の耐放射線性が高くないため近い将来に検出器を交換すること等について述べた。最後に、シリコン検出器の将来の代替の可能性としてダイヤモンド検出器の研究を行っていること、良好な性能を示していることについて述べた。</p> <p>聴衆の反応は概ね良好であった。質疑応答ではダイヤモンド検出器の性能（耐放射線性等）がどうなのかについて話があった。自分の発表の他にもダイヤモンド検出器について発表したトークもあり、どの会社の検出器を使用しているのか、性能はどうか等の話をした。</p>			